

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和元年 7 月 16 日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）◇

4 月中下旬植えの出穂期は 7 月 8～15 日程度で**平年並み**です。稈長は平年よりやや長く、一部、用水不足の地域においては穂数が少なく減収が懸念されます。出穂期前後は水を切らさないよう管理を行いましょ。斑点米対策として穂揃期～乳熟期にカメムシ類対策を徹底しましょ。

### ◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

5 月下旬～6 月上旬植え「夢つくし」は**茎数が確保され、中干し時期を迎えています**。田植え後の用水不足などの影響で雑草が多い場合には、中後期の除草対策を実施しましょ。現時点では、いもち病の発生は少ないです。計画的な配水により、用水を確保しましょ。

6 月中下旬植えは、茎数が確保され次第中干しを開始しましょ。ウンカやいもち病等病害虫の発生に留意し、適切な対策を行いましょ。

### ◇大豆◇

**播種は、県北部を中心に 6 月中旬から開始され、6 月中下旬に播種されたほ場では、適度な土壌水分もあり順調に出芽しています**。少雨で経過したこともあり 7 月 9 日時点の**播種進捗は 1,017ha(前年同期 231ha)と進んでいます**。今後、土壌水分が適度になったら速やかに播種し、7 月 20 日までの適期播種に努めましょ。土壌の乾湿に応じて播種深度を調整し、再播種や播種時期が遅くなる場合は、播種量を増やしましょ。

### ◇夏秋ナス◇

**雨よけ栽培は、全体的には生育順調ですが、一部で 5 月の高温時期のかん水不足による樹勢低下が見られます**。谷、サイド、妻の換気によりハウス内の昇温抑制に努めましょ。

露地栽培は、4 月上中旬定植でトンネル被覆等の保温対策をしていない一部のほ場で生育遅延（停滞）が見られます。5 月下旬の強風による葉の損傷等により樹勢低下が一時見られましたが、現在は回復し、順調に生育しています。草勢低下の場合は、早めの収穫や不良果の摘果、肥料の葉面散布で回復を促しましょ。

うどんこ病が散見されますが、病害虫の発生は少ないです。高温等により根傷みしたほ場で、土壌病害である青枯病が発生し、徐々に発生本数が増加しています。栽培終了後に土壌消毒を行いましょ。

### ◇温州ミカン◇

ハウスミカンは、早期加温栽培の出荷が 6 月上旬で終了し、6 月下旬から中期加温栽

培が出荷中です。果実糖度は前年よりやや高く、果実肥大も良好です。梅雨入り後、一部で浮皮が発生しています。

着果量は、**極早生、早生が並み～やや多、普通はやや少なく**、果実肥大は、開花が前年より遅く、乾燥傾向で、前年並み～やや小さいです。着果量の多い極早生、早生では早急に摘果しましょう。シートマルチをする園では、土壌が乾燥しすぎないようにやや湿った状態で被覆しましょう。

病害虫は、ハダニ、カミキリムシが発生しています。黒点病・ダニ対策を徹底しましょう。

#### ◇イチジク◇

加温ハウスが出荷中です。高温傾向のため前進化し、品質は概ね良好ですが、**やや小玉傾向**です。6月下旬以降は、降雨の影響による果実のカビ、腐敗等が一部発生しています。

無加温ハウスおよび露地栽培の生育は前年並みで、**無加温ハウスは7月中旬、露地栽培は8月上旬から出荷開始の見込み**です。

黒葉枯病など病害は全体的に少なく、カミキリムシや施設中心にハダニが一部発生しています。今後、疫病、黒葉枯病、さび病、ハダニ、カミキリムシの対策を徹底しましょう。

ハウス栽培では適期収穫および鮮度保持管理に努めましょう。また、梅雨明け後はハウスの開放度を高め、温度上昇を抑制しましょう。誘引、副梢管理を徹底し、受光体制の改善に努めてください。

#### ◇トルコギキョウ◇

**6月の出荷量は、夏季出荷作型（6～9月出荷）面積の減少および開花が前進化したことで大きく減少**しました。6月の需要は少なく、販売単価も前年比95%と低下しました。

秋出荷作型（10～11月出荷）では、冷房育苗が順調に行われ、定植は7月下旬から順次開始されます。定植前から寒冷紗を被覆し、定植時の地温低下を図りましょう。定植後は抽台開始まで十分なかん水を行いましょ。

夜蛾類対策（防虫ネット、黄色灯の設置）を徹底しましょう。

#### ◇ホオズキ◇

生育は、定植後の乾燥により一部の産地ではバラツキがありますが、**草丈、着果状況ともに良好**です。出荷最盛期は、実のみが7月下旬、実付き枝は7月末～8月初旬の予定です。降雨後の白絹病、斑点細菌病対策を徹底しましょう。

#### ◇肉用牛◇

**和牛枝肉単価はほぼ前年並み**で、過去5年平均比では**100%を超える水準を継続**しています。交雑種相当の**省令価格**は、前年比110%、過去5年平均比で106%と上昇しています。今

後の末端需要は、高単価である和牛肉から手頃価格な輸入牛肉や交雑牛などへ移行すると予想されます。高温多湿のため、送風や遮光等、暑熱対策を徹底しましょう。